



国民連携に係る各県庁との意見交換会

国民連携の関心事項・要望を現場で具体化する

一般会計への移行から2年目を迎え、国民連携を加速化する観点から、5月7日の熊本県を皮切りに、九州・沖縄全県を訪問し、各県の幹部や事業担当者も加えた意見交換会を開きました。

九州森林管理局からは業務管理官(熊本県、沖縄県、長崎県、佐賀県、大分県、宮崎県)担当、計画保全部長(福岡県)担当、森林整備部長(宮崎県)担当、流域管理指導官、企画官(国民連携担当)、林政推進係長、森林管理署などからは署長、地域林政調整官、森林技術指導官など、国民連携担当者が各県を訪れ、局及び各署の重点取組事項を情報提供するとともに、国民連携に係る課題と具体的な連携のあり方などについて話し合いました。

主伐・再造林の取り組み、国民連携の関心事項、要望を現場で具体化する



冒頭挨拶をする上田業務管理官



有林と一体となった森林整備、システム販売、木質バイオマス発電向けの原料の供給、苗木の需給調整、シカ対策、松枯れ対策、世界自然遺産登録に向けた協議など、各県の関心事項は幅広く、各テーマについて、さらなる情報提供の依頼、具体的な連携の提案などが行われ、有意義な意見交換となりました。

今後、今回の取り組みで把握した国民連携の関心事項、要望を現場段階で具体化させていく必要があります。

熊本県との意見交換

村などに積極的に、出向き、地域のニーズを把握し、より地域に根差した取り組み・連携の具体化を進めていきます。

(担当) 企画調整課



宮崎県との意見交換



福岡県との意見交換



熊本南部森林管理署

五家荘森林事務所

森林官 中村 英之

熊本南部森林管理署北東部に位置する熊本県最高峰の「国見岳」を紹介し、九州山地中央部の向霧立山地に属する山で、山



国見岳山頂（手前に見える祠付近）

「日本三百名山」の一つ 「国見岳」1738・82 峰

頂には一等三角点が設置され、標高は1738・82 峰となり、日本三百名山及び一等三角点百名山の一つに数えられています。山頂までの登山ルートは宮崎県椎葉村からのルート

5号線を利用して二本杉峠、泉町葉木等を経て樫木登山口から登山口からは、まず植林された木々の中の急坂を登りますので、ゆっくりと休みを取りながら登ります。1時間ほど登ると旧道との分岐点に合流し少し登

れば、ゆるやかな斜面の登山道になり巨木も多くなってきました。さらに登っていくと五勇山分岐を経て国見岳山頂に到達します。山頂には石稜のうえに立派な祠が鎮座しており、

その雄大な展望は抜群で九州南部の主要な山々が見渡せ、季節にはシャクナゲの花も見る事が出来ます。

「国見」の名前は、「広い地域を眺望できる」、「自分の領地を見渡す事が出来る」という意味から付けられたとも云われているようで、山頂からの雄大な展望からも由来にはうなずけます。皆さまも、時間が許せばこの壮大な展望を体感されてはいかがでしょうか、その外にも季節の花々や、大きな木々が皆さまをお待ちしています。



国見岳山頂に鎮座する祠



歩道沿いのブナの大木



満開のハイノキの花



木製品作成に取り組む子供ら＝宮崎

地元イベントへ出展

【宮崎森林管理署】農林水産物の地場産品を広く紹介し、地域貢献を図ることを目的に「食フェスタ in みやざき2014」が5月10日～11日に開かれました。当署では5月11日に木工品作成コーナーを設け、「木製キーホルダー（もっくん）」、「木製ネームプレート」、「巣箱」の木工品作成体験を行いました。当日は晴天に恵まれ、多くの参加者で賑い、当署ブース前では、子供連れの家族が詰めかけ、親子が一緒に遊んで、思い思いの作品づくりを楽しみました。参加者は木製品の作成を楽しみ、食フェスタは森林、国有林のPRに有意義なイベントとなりました。

「職場のメンタルヘルス」について講話 うつ病の支援について

6月3日、局大会議室において桜が丘病院の精神保健福祉士原田健一氏を講師に招き「職場のメンタルヘルス」うつ病の支援について」と題した「心の健康づくり講話」を開きました。この講話は例年署長等会議に併せて行っており、局内職員や各署長など多数の参加がありました。



講師の原田健一先生

「ディスチミア親和型（新型うつ病）」に分類されることなどを、具体的な症例を示しながら話していただきました。

講話では、精神科医療の現状として、近年気分障害やアルツハイマー病、認知症などの症例が増えていることや、「うつ病」もその内容の多様性から「メンタリ」親和型（従来型うつ病）」



原田先生の講話を聞く参加者

また、早期発見のためには、本人が「よく眠れない」「気力・集中力・根気がなくなった」などのサインに気づくとともに、家族・同僚への相談などの対応を早めに行うこと、上司・管理職としては早期発見・早期対応を図るため、日頃からのコミュニケーションが必要であることなど、家庭や職場でのメンタルヘルス対策の重要性についても話題提供頂きました。

今回の講話が、職員の皆さんの「心の健康づくり」に役立つとともに、明るく健康的な職場づくりの一助となれば幸いです。「心の健康づくり」に役立つ話

「綾の森」照葉樹林文化を写真で発信



一般社団法人

てるはの森の会

大津留 司さん

川中公園で、写真家の黒木一明さんと再会した。彼は綾の森を撮り続けて20年になる。私は、長年綾の森のボランティアガイドとして、お互い話が弾んだ。当時、綾町は、ユネスコパークの登録を目指しており、これを機会に一緒に綾の森を歩こうということになった。私は、兼ねてからクマタカ

の雄姿を写真に収めたいと思っていたので、この時とばかりに黒木さんをお願いすると快く承諾して頂いた。写真家黒木一明氏と森の案内人である私の二

題については、これからも機会を捉えて提供していきたいと考えています。

5月には、黒木さんの捉えた綾の世界が写真集「森のピカソ」として一冊の本に纏められます。本を手にする多くの人が、黒木さんの森を見つめる深い眼差しを通して、綾の森の素晴らしさを共に分かち合えることを願っています。

人三脚の楽しいコンジが始まった。ことあるごとに、二人で森を歩き、観察し、森について語り合い、クマタカの撮影にも成功し多くの思い出ができた。特に、印象深かったのは、森影中、急にとしゃぶりとなり、雷鳴が轟き、楽しみにしていた弁当も水浸しとなり大変な思いをした。雨の後、森は深い霧に

【長崎森林管理署】5月26日 災害防止対策の一環として、「防災対策現地視察」が島原市主催で毎年梅雨前のこの時期に行われており、今回は防災関係機関から約50人と当署から5人が参加しました。当日はあいにくの雨のため現地での説明はできず雲仙復興事務所に場所を移し、眉山における治山対策の概要、

雨のため雲仙復興事務所で行われた視察メンバーは長崎包まれ急に暗くなり、屋なのに夕方と間違えたのか蝸（へび）が鳴き始め、何とも言えない荘厳さに時のたつのも忘れ、茫然と佇んでいたことが、深く心に残っている。これからも二人で森の旅が続くことを楽しみにしている。



「路網検討会」で意見交換

【熊本南部森林管理署】熊本県球磨地域振興局及び関係林業事業者や九州森林管理局資源活用課、当署職員など約60人が参加し、人吉建設会館において「路網検討会」を開きました。

当署では職員による路網プロジェクトチームを3班に編成し、それぞれ今年度実行の誘導伐箇所と保育間伐（活用型）箇所の森林作業道について現地検証を行いました。当日は、搬出路、集材路の線形や洗越しでの水処理などの検証結果の発表を行い、参加者からは林道からの取付口や路網線形の改善点、水処理を考慮した路網開設などについて



路網検討会へ参加した民・国の関係者＝熊本南部

活発な意見があり、また、実際に路網開設に携わったオペレーターの体験談を聞くなど、今後の効率的な路網整備につなげる検討会となりました。

森林教室で三つの作業を体験

【都城支署】当署管内遅霧国有林において、三股町立三股西小学校4年生に三つのプログラム「樹木調べ・丸太切り・収穫調査」について森林教室を行いました。「樹木調べ」では、広葉樹の樹皮や葉の特徴の違いを



9年前会社を満期退職し自由な時間を頂き、近隣の山に登り岡垣町の風景やみどりを満喫し、また波津海岸線のワインディング・ルートではバイクでツーリングを楽しんでいました。

あるときフットと気が付きました。よく見ると山裾に竹林が増え、50年前バイクで疾走した浜



立野 重記さん

見比べた後、答え合わせコーナーでは正解するたびに歓声を挙げていました。「丸太切り」体験では、児童らは懸命に鋸を引き切り終わった丸太の年輪を数えたり、匂いを嗅いだりして大事に持ち帰っていききました。「収穫調査」では、杉の木の高さを測る作業に二等辺三角定規の先端と立木の先端が合った位置から距離を測り、高さを導く体験に簡単に木の高さを出せることに感動していました。この森林教室は、「総合的な学習の時間」

は不細工なテトラポットが連なりその裏側には、木屑、空き缶、空き瓶、ペットボトルなどの廃棄物で埋まり悲しい風景に一変していました。

また、国有林でもある岡垣町の大切な三里松原が松食い虫の被害で立ち枯れしていて、その上雑木が侵入していました。

この様な風景を見て環境改善

に役に立ちたいと思っていた6年前、私にとって家族の次に大切な仲間と出会いました。それは町が企画した環境保全リーダー養成講座でした。その時のメンバーが主体となって立ち上がったボランティアグループが私達

の一環として同小学校から要請



丸太切りに挑戦する児童ら＝都城支署

の会「岡垣町みどりのまちづくりの会」です。

平成22年町が管理する里山約6000平方メートルを研修実践場として借用し「健全な森」再生に挑戦しました。毎月2回、会のメンバー38人の内月平均10

みどりのまちづくり

人の参加、最初の頃、昼でも暗く横になっても通れない密生した竹林に取り掛かった時正直この先どうなることか!?。藪、ツタカズラを切り払い竹林を伐採し、植樹をした後の雑草刈に追われながら今年の3月、5年

があったもので、児童の森林や自然に関する体験を通じた学習の課題作りを目的としており、当署においては今後ともこの活動に積極的に協力し森林の役割・自然との関わりについて知識や理解をより深めてもらえるよう取り組んでいくこととしていきます。

当日の様子は、マスコミにも報じられるなど、森林・林業の重要性などをPRすることができました。

間で5回合計約2千本の植樹を終え4月に素晴らしい里山にして町にお返しすることができました……嬉しかったです。

緑のまちづくりの会にENDはありません。4月からは早速次の箇所、一丁溜池北側の里山約24000平方メートルの健全化に取り組んでいます。

私達は森作りの苦勞が如何に大変かと言うものが分かりました。技術、知識もまだまだ未熟ですがいつかは九州森林管理局のお手伝い出来る日が来ると信じて『森』を育ててまいりたいと思っています。

(福岡県在住)

食と健康フェア2014へ出展

九州農政局と連携し初の参加

5月31日と6月1日に熊本市動植物園において熊本市及び熊本市教育委員会主催のイベント「食と健康フェア2014」が開かれ、「森林と水と食」の深い繋がりを市民に理解して頂くことを目的に九州農政局と連携し初めて参加しました。

親子連で出来映えを競いながら取り組む姿もみられ、出来上がったストラップを得意そうに掲げてみせる子どもや美しい木目を再認識できたなど木との触れ合いを楽しみ参加者の姿が見られました。

展示ブースでは、森林の役割などを紹介するパネル展示、これを利用した農政局とのコラボによるクイズとパンフレット配布や、木製ストラップ（おにぎりくん）作りを行いました。

森林管理局のブースには両日で約200人の来場者があり、森林の持つ役割などについて広く一般の方々に啓発することができたイベントとなりました。（担当：技術普及課）



農政局と森林管理局合同で出展したブース



人気があったストラップ作り

地元中学生が職場体験学習

【大隅森林管理署】鹿屋市立

大始良中学校3年生3人が職場



間伐実習を行う生徒ら＝大隅

体験学習を行い、1日目は森林の機能や林業の役割などについて、2日目は治山事業の必要性と林地保全の重要性を学習。その後、造林地で保育間伐作業の体験実習を行い鋸を使用した初めての作業に汗を流し、体験後

の感想では、「森林管理署は木を伐るだけと思っていただけ、山や河川の保護によって災害を防止したり、いろいろな仕事がありびっくりした」などの感想があり、充実した体験学習となりました。これをきっかけに、自然や環境、林業の大切さを理解し、そこで働く人々のことを思い出してほしいものです。

治山事業現場で鹿児島市防災点検

【鹿児島森林管理署】平成26年度鹿児島市防災点検が森博幸鹿児島市長はじめ市の防災対策関係者や消防署職員など23人で現在施工中の桜島地区民有林直轄治山事業の現場で行われ、総括治山技術官が概要説明を行い

ました。当日はあいにくの強風と雨の中での点検となりましたが、地元住民からは安全で安心して暮らせるのも治山対策のおかげですとお礼の言葉があり、これからも一層の治山対策の推進をお願いされ防災点検を終了しました。

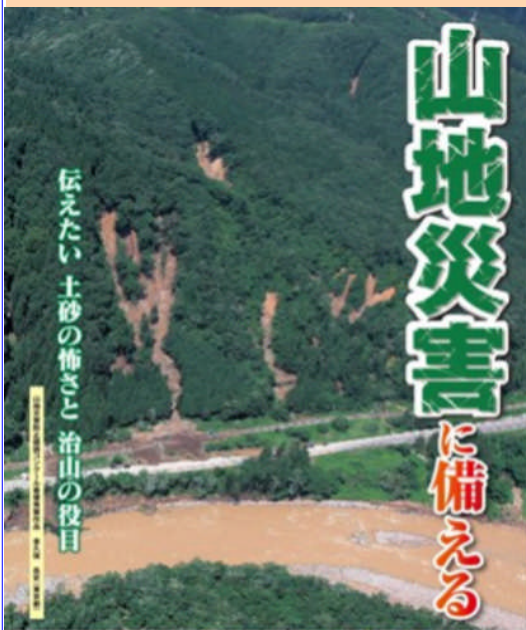


雨の中行われた防災点検＝鹿児島

平成26年度 山地災害防止キャンペーン

林野庁では、平成26年5月20日から6月30日までの期間、「山地災害に備える」を合い言葉に、「山地災害防止キャンペーン」を実施しています。

九州森林管理局においては、この期間中、地域住民の皆様の防災意識の高揚に資することを目的として、関係機関や地域住民の皆様などのご理解・ご協力を得ながら、山地災害危険地区の周知やパトロールなどを実施しています。（担当＝治山課）



平成26年度 山地災害防止キャンペーン
 期間 5月20日(水)～6月30日(木)
 主催 林野庁／国土交通省／市町村
 協賛 (一社)日本治山協会

民有林主権の会議へ参加

【大隅森林管理署】「大隅地域森林整備事業推進対策会議」では今年度の目標として「民有林・国有林全体の事業量や林業全般の動向について情報を共有していくことが必要」として鹿児島県大隅地域振興局からの要請で当署や市町、森林組合、林業事業体などが参加し開かれました。会議では、林業事業体の労働者不足解消、間伐推進の課題を解決し地域林業の発展を図ることとし①木材の安定供給②間伐の推進③民有林の造林補助事業④国有林における森林整備事業⑤森林経営計画などについて説明や意見交換が行われ、間伐コスト分析シートを活用した作業システムや処理能力の高い



大隅関係者に参加した会議

機械を中心とした作業システムへの取り組みなどを議論し会議を終了。今後も、国有林自らが情報の発信源として関係機関と協働して地域林業の活性化に努めていくこととします。

桜島地区地元説明会を開催

【鹿児島森林管理署】5月22日平成26年度の桜島地区民有林直轄治山事業の地元説明会を地元公民館長、鹿児島市の関係部署、報道機関など総勢30人で鹿児島市桜島支所及び現在施工中

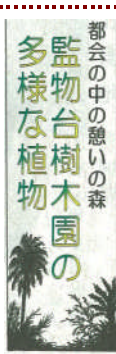
の工事現場や今年度の計画箇所で行いました。全体説明では、



鹿児島関係者へ説明を担当する現場

「これまで土石流による被害がないのは治山事業のおかげであり、益々の治山事業の推進をお願いします」との公民館長からの言葉があり、また、今年3月に施工した航空実播工箇所では、施工前と現在と比較され、着実に緑になっていく現状に皆さんに驚かれ、治山事業の役割や重要性についてご理解していただいた有意義な説明会となりました。

お知らせ
シリーズ編「森林春秋」今月号は次号へ掲載します。



イヌガヤは陰樹で、森を歩けばどこでも普通に観察できます。私は雄花をたくさん観察しましたが雌花と果実の観察をしたことがありません。イチイの果実は多く観察して甘い果実も食べたことがあります。よく似ていて食べると苦いそうです。

日本には岩手県から屋久島まで分布し、林の中やや湿度のあるところや、日陰の人工造林地の中でも観察できます。雌雄異種で葉先は鋭く尖っており、その様子はカヤによく似ています。カヤの葉を触ると思わず手を引っ込めてしまうような痛み



を感じます。イヌガヤは葉質が柔らかくほとんど痛くないので、葉を触ることによって区別出来ます。

大木にはならず樹高は8mから10mです。雄花は普通に観察でき、4月から5月頃、葉脇に球形で6個から9個集まって付いています。

名前はカヤに似ているが苦くて食べられないためとか、昔、蚊やりに使われたからとの説があります。あまり信用できないと説明されています（牧野図鑑など）。監物台では一番奥の東側に一本あり、葉を手で触れて



痛くないか試してみたいかがでしょうか。



「WOOD JOB!」を見に行った。観客は叔父さんが数人といった状態であった。映画監督の矢口氏自らが、原作である三浦しん作の「神去なあなあ日常」の舞台である三重県津市美杉町に何度か足を運び入念な取材により得た森の文化を山盛りに詰め込んだ娯楽映画であった▼百年単位で労力をかけ、次世代へ繋いでいく林業の現場に、ひよんなことから放り込まれた都会育ちの少年の立ち振る舞いに、ついつい自分のつたない林業経験を重ね「そうだよ」と感動したり、「そんな訳ない」と勝手に理想しながらラストの奇祭までなあなあとした時間を楽しんだ▼この映画で大雨により林道に倒れかかった倒木を除去するシーンを見たからではないが、今年の九州地方の梅雨はエルニーニョの影響を間接的に受けたため梅雨明けは例年より遅れ、長雨と梅雨末期の集中豪雨に警戒が必要との予報がなされている。梅雨や台風を控えたこの時期は緊急連絡体制の事前確認を含めた万全の備えに努めよう▼続編「神去なあなあ夜話」の映画化を期待している(大)